

永小作者ヲラシム可シト約セシモノニテ兩項ノ主意格別ナルハ一讀以テ領ス可シ是東京上等裁判所カ第一項ノ契約ハ論地小作米ヲ不納セサル限リハ永小作可爲致トノコト約シタルモノト解釋シ第一項ノ永小作ト第四項後段ノ永小作トハ其契約ノ主趣ヲ異ニスト判定セシ所以ナルトス其第四項ノ前段ニ小作田畑都合筋ニ寄外方ハ賣渡候節ハ前以小作人方ハ斷之上望無之ハ格別望之節ハ小作銘々ハ買取代價利當ヲ以讓渡可致極之ト置キ被告カ該田畑ヲ賣拂フ節ハ責任ヲ定メ而テ其後段ニ當地主ヨリ斷之上不依何儀從前之通永小作可致極之ト置シハ前段ノ斷ルヘキヲ忘リシキ其責任ニ代ルノ責任定メシモノトス何トナレハ被告カ斷ラスシテ他人ニ賣渡スルハ假令原告カ望ミアルモ其望ミヲ遂クルコトヲ得ス其望ヲ遂クルコトヲ得サルハ被告カ斷ラサルニ因ルモノナレハ被告ハ其責ニ

任セサルヲ得サレハナリ是後段ノ責任ヲ定メシ所以ナリトス若シ被告カ斷リノ上原告ニ於テ望ミナシトス換撥ヲ得テ他人ニ賣渡カ如キハ被告ハ第四項前段ノ責任ヲ盡セシモノナレハ更ニ後段ノ責任ヲ定ムルノ道理ナシトス何トナレハ被告ヨリ賣拂フコトヲ斷リシキ原告カ望ミナシト云フニ於テ小作田畑カ何人ノ所有トナルモ之カ爲メ原告ハ被告ヲ責ムルノ權利ナシ被告ハ之カ爲メ原告ニ負フヘキ義務ナキヲ以テ小作田畑ハ何人ニ賣渡スモ所有主ナル被告ノ勝手ナレハナリ左スレハ若シ方一其儀無之トアルハ斷ルヘキヲ忘リシ場合ト解釋スルノ外之ニ代フヘキ解釋ナシトス是東京上等裁判所カ若シ方一其儀無之外方ニ讓渡相成候節者トアルハ前段ノ斷ルヘキ義務ヲ忘リシ場合ノ契約ナリト解釋シ小作人カ望ミ無之ト云フニ於テハ所有者タル地主ノ勝手ナルヘキモノト説明セシ所

以テリトス故ニ東京上等裁判所ノ裁判ハ不法ニ非ストス

右ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スルキ理由ナキモ

第百六十三號

○新敷夏草刈採争論一件上告ノ判文明治十三年四月九日上告

長野縣信濃國上伊那郡

朝日村平出耕地總代兼

同耕地平民

中村吉藏

同總代同耕地平民新村

分縣士族

東京府神田區駿河臺北

甲賀町十九番地寄留大

分縣士族

伊藤修

長野縣信濃國上伊那郡

伊那富村ノ内宮所耕地

總代同村平民

小松三平治

長田七郎治

同總代同村平民小澤儀

右武代人

東京府神田區一ツ橋通

町七番地寄留和歌山縣

主族

同 大井憲太郎

上告ノ要點左ノ如シ

第一

初審ニ六耕地ヲ被告トシテ已ニ伊那富全村即チ六耕地ニ係リ初審ノ裁判ヲ受ケ該裁判ニ不服ヲ唱ヘ之レカ覆審ヲ求ムルナラハ又六耕地ニ係ルヘキチ今五耕地ヲ闕キ獨リ被告ノヨリ係リタルハ不條理ナリトノ裁判ハ不法ナリトノ

第二

被告耕地ハ伊那富全村ノ地元タルヲ以テ六耕地總代ニ見据タルモノニテ初審ニ於テ被告耕地總代等ヲ伊那富村總代ト記シタルモ

同主意ナルニ誤テ同村總代ノ文字ヲ脱セシヨリ其理由ヲ開申シタルニ採用ナキノミナラス原告カ被告耕地ニ係ル訴權ヲモ合セテ無効ニ歸セシメテレタルハ不法ナリトノ

第一

原告ハ初審ニ伊那富全村即チ六耕地ニ係ル訴訟ニ及ヒ其裁判ニ不服アラハ亦六耕地ニ係リ控訴スヘキチ今原告ハ五耕地ヲ闕キ獨リ被告ノヨリ係リタルヲ以テ原裁判所ニ於テ被告ト爲ルヘキ責任ナキ理由ヲ論辨シ原裁判所モ之ヲ至當ナリトシテ裁判セラレタルハ毫モ不當ニ非ラサルトノ

第二

原告ハ誤テ同村總代ノ文字ヲ脱シ云々又原告カ被告耕地ニ係ル訴

權ヲモ合セテ無効ニ歸セシメラレタルハ不法ナリト云フト雖モ控
訴狀中ニモ明カニ被告耕地ノミニ係リタル文意ヲ記載シアリ且被
告耕地ハ係ル訴權云々ト云フト雖モ前項ニ論セシ如ク原告ノ所論
ハ失鴻ナリ依テ到底被告ハ被告取違ノ訴訟ニ對シ答辨スヘキ理由
ナキトノコト

辨明

上告者ハ初審ニ六耕地ヲ被告トシテ已ニ伊那富全村即チ六耕地ニ
係リ初審ノ裁判ヲ受ケ該裁判ニ不服ヲ唱ヘ之レカ覆審ヲ求ムルナ
ラハ又六耕地ニ係ルヘキチ今五耕地ヲ關キ獨リ被告ノミニ係リタ
ルハ不條理ナリトシテ裁判ハ不法ナリト陳述シテ依テ原上等裁判
所ニ送致ノ書類ヲ取調フルニ上告者カ曾テ證據トセシ其第一號
ハ上告平出耕地ヨリ被上告宮所耕地ヘ對シタル確定ノ裁判狀ナリ

上告者カ之ヲ證據トシテ本訴ヲ提起シタルハ該判文ノ意義ヲ擴充
シテ刈敷夏草ヲ所得セントノ企望ニ外ナラスト左スレハ控訴狀
ニ伊那富村ト書セスシテ直ニ被告宮所耕地トシテレハトテ決シテ
對手ノ目的ヲ謬リタル訴狀ニ無之モノトス抑前訴葛葉刈採爭論ノ
場合ニオイテ被上告ハ入會各村ヲ擱キ己ノ權ヲ以テ之レニ對辨
シ竟ニ確定ノ裁判ヲ得タリ然シテ本訴ハ之ニ基キタルモノナレハ
始審訴狀ニ原告朝日村惣代某々被告伊那富村惣代某々トアルモ其
實際ハ該村ノ内平出耕地ヨリ宮所耕地ニ對シタル訴件ニ相違無之
加之上告者ハ明治十二年六月十二日付ヲ以テ論地ヘ入山ノ妨害ヲ
訴ヘ松本裁判所ノ指令ヲ受ケ又更ニ前裁判執行ノ願書ヲ差出シテ
夫レ上告者カ宮所耕地ヲ敵手トシテハ若々視ルニ足レリト
ス然ルニ原上等裁判所ニ於テハ初審訴狀ニ伊那富全村ヲ被告トナ

第二、判文中高瀬與右衛門カ保証ト稱スルモノヲ示サレ其末文ニ
 「申候事ト有之此數証ヲ以テ彼ノ明治四年九月附對談一冊ニ參照ス
 レハ初審被告甲第一號証書ハ原告等カ其社中ニ對シ煉化製造ヲ受
 ケ貸フタルニヨリ從前社中カ被告ニ貸フ處ノ借金ヲモ原告等カ負
 擔セシニヨリテ成立タルモノナルヲ知ルヘシトアレトモ高瀬與右
 衛門保証ノ如キハ更ニ上告人等カ認め得サルノ証ナルハ勿論上告
 人於テハ被告ノ助証者ナル旨ヲ申立之カ保証ヲ拒メリ然ルニ與右
 衛門カ申立ヲ取テ裁判ノ要用トセラレシハ不法ナリトノ事
 第三、判文中原告ニ於テ乙第一號証書ニ後日勘定ノ節ハ元証文ヲ
 以テ勘定相立貴殿方ニ迷惑相掛ケ申問敷トアルヲ以テ乙第六號七
 號ノ借主八名ヲ以テ勘定相立ルトノ約束ナル旨申立ルト雖モ原被
 問ニ於テ他ノ五名ノ義務ヲ約束スル道理ナク仮令約束スルモ其効

有セザルハ勿論云々ト示サレタレトモ決シテ當テサルモノト信
 大元來該契約ハ原被問ノ旨ニテ成立ス其元証文ハ依然原被問ニ藏
 存セリ故ニ被告カ元証文ニ依リ請求セント欲セハ何時ニテモ其望
 ヲ遂ゲ得ヘキモノナレハ此契約タルヤ効力ヲ有セサル道理ナシ況
 立外社中カ原裁判所ニ申立テニモ白根マヌニ對シ四百圓証ノ返戻
 ヲ促カンタリト有ルニ非ラスヤ然ルモ其効ヲ有セサルハ勿論云々
 ト裁判セラレシハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトノ事
 第四、判文中然レハ此元証文ヲ以テ勘定相立ルトアルハ特リ佐兵
 衛ニ於テ己レニ負フヘキ金額丈ケハ己レニ引受ケルトノ約束ヲ爲
 タルモノト見做サ、ル可カラスト解釋セラレシハ不法ト云フヘシ
 何トナレハ該証中金八百兩ト相改メ候得共後日勘定ノ節ハ元証文
 ヲ以テ勘定相立貴殿方ニ迷惑相掛ケ申問敷トアレハ其外社中カ

故障ヲ唱フルモノトシ此返証ノ効ヲ奏セサルモノトスルモ自分等
ノミノ怠リニ非ラズシテ原被熟議上ヨリ成立タルモノナレハ被告
モ此契約ニ付テ一分ノ責ヲ負ハサル可カラサルコト該金ヲ三分
シテ負擔スルハ當然ナルニ毫モ見ルヘキノ文詞ナキニモ拘ハラズ
判文終結ニ至リ被告ハ五拾圓ノミノ義務トシ裁判セラレシハ不法
ナリトノ事

第二條

本條ハ抵當煉化貳拾五万本ハ佐兵衛カ賣却セシテ信用スルニ足ラ
スト裁判セラレシハ不法ナリトスルニアリ其理由ハ判文中原告乙
第五號証書ハ被告ノ認メタル証據ナキニシテ右証書中ニ依ル
モ高瀬興右衛門自根佐兵衛合併小菅表へ回漕云々ト之アリ然レハ
抵當ノ品ハ佐兵衛一己ニ擅賣セシモノニ非サル計知ルヘシトノ判

旨ナルモ事實ヲ誤ラレシモノト云フニ該計算ハ事實ヲ擧ケタル
モノニシテ已ニ判文ニ一己ニ擅賣セシモノニ非ルヲ知ルベシトアレハ
假令一己ニ擅賣セサルモ兩名ナラハ賣却シタリトノ意ヲ含マレタ
ルモノト如シ然ルニ此点ノ密接ナク加之被告便益ヲ圖ル高瀬興右
衛門及シテ外社中カ証セシモノナレハ當時ニ在テ他ニ煉化石ナキニ
ヨリ抵當煉化ヲ運搬シタルヲ明瞭ナリトノ事
依テ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

第一條

上告人ニ於テ上告要旨第一條第一項ノ如ク申立ルト雖モ原裁判所
判決ノ趣旨ハ明治四年九月付爲取替証ニ記載スル所ト外三証トテ
參看スルニ被告初審甲第一號証書ハ從前社中カ被告ニ負フ所ノ借

金ヲ上告人等カ負擔セシニ依テ成立タルモノナリト推定シタルモ
 テニテ決テ右取替セ証ヲ以テ煉化石會社カ上告人等限リ引受ケタ
 リト判定シタルニアラストス何トナレハ判文ニ原告等カ其社中ニ
 對シ煉化石製造ヲ受負フタルニヨリ從前社中カ被告ニ負フ所ノ借
 金ヲモ原告等カ負擔セシニヨリテ成立タルモノナリト說明シタル
 用未ダ會社煉化石會社ヲ引受タルニヨリ云々ト判定シタルトアラ
 カレハナリ然リ而シテ其此ノ如キ說明ヲ爲シタル所以ハ右爲取替
 証ニ記載セル事柄上告者初審ノ答書及被上告第十一號証東京裁判
 所判文中上告者ノ一人タル大久保宗平ノ答辨其他高瀬與右衛門保
 証書等ニ照應スルシモナラス若シ之ヲ然ラストスルハハ名連署
 ナル乙第六七號証書ヲ故ラニ上告人等兩名ノ証書ニ書換タルハ何
 ノ爲メナルヤ少シモ詮ナキコトニ歸シ且ハ前文爲取替証ニ上告人等

引受ノ明記アル眞木代金ヲモ合算シテ之ヲ書換ユル道理ナキニモ
 之ヲ認定シタルモノナレハ証憑理由共ニ具備スルノ裁判ニシテ
 決テ不法ト云ヘキモノコアラズトス

第二條

上告人ニ於テ上告要旨第一條第二項ノ如ク中立ルト雖モ凡詞訟ノ
 証言ヲ取捨スルハ其証言スル事柄ノ如何ニ依ルヘキモノニテ相手
 方ノ認不認ニ依ルヘキモノニアラス即被上告第二號証ハ原被告カ
 提供スル明治四年九月爲取替對談一札ニ記載アル元ノ高瀬與右衛
 門ノ証言ニシテ其第七項八項ニ陳言スル所口前條ニ辨明セシ如ク
 外三証ニ照應スル所口前條ニ素ヨリ信用スルニ足ルヘキモノナリ
 依テ原裁判所カ右証言ヲ採用シタルハ相當ノ裁判ナリトス

第三條

上告人ニ於テ上告要旨第一條第三項第四項ノ如ク申立ルト雖モ抑
 八名連署ノ乙第六七號証ニ被上告初審甲第一號証ノ如ク上告者兩
 名ノ証書ニ書換タルモノハ必書換サルヲ得サルノ理由アリテ之ヲ
 書換タルモノト見做サレ得ス既ニ書換サルヲ得サルノ理由ス
 リテ之ヲ書換ルニ至リテ上原被告ノ外五名者ノ關係セサル真木代
 金ヲモ加算セシ証書ナレハ之ニ對シ佐兵衛於テ他人即チ右五名ノ
 事ヲ契約スルノ道理ナキニシテ長シヤ之ヲ契約シタルモノモ
 スルモ他人ニ効力ヲ及ス能ハサルハ元証文ノ有無ニ關セサルモ人
 トス左スレハ乙第一號証ニ記載スル趣意ニ於テ文理少シク明了ナ
 欠ク所アルモ佐兵衛カ自己ニ負フヘキ金額ヲ引受ケ上告人等ニ迷
 惑ヲ被ラシメサルハ道理上當然ノ事柄ナルヲ以テ原裁判所カ上
 告者申分ノ立カドキ理由ヲ說明セシ末元証文ヲ以テ勘定相立トス

ルハ佐兵衛ニ於テ云々ト解釋テ下シタル事理適當ヲ認定ナリト
 大

第四條

上告人ニ於テ上告要旨第二條ノ如ク申立ルト雖モ被告初審甲第一
 號証書ニ前書ノ品書入トアルノミニテ抵當煉化石ヲ被上告者ニ引
 渡スノ契約ナリト認ムヘキモノ毫モ之ヲキノミナラズ乙第五號証
 ノ如キ被上告者ノ認メタルモノニアラサル限りハ假令高瀬與右衛
 門等ノ証書類ニテ當時他ニ煉化石アラサリシトテ之ヲ以テ被
 上告者ヲ責ムルノ効力ヲ有シカタク況シテ該証ニ記載スル處ニモ
 高瀬與右衛門白根佐兵衛合併云々トアリテ上告者カ曾テ陳述
 セシ佐兵衛一己ニ擅賣セシト云主論ニモ適セサルモノナレハ原裁
 判所カ之ヲ採用セサリシトテ不當ト云ヘキモノニアラストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ本訴ニ對スル東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀
スヘキ理由ナシトス

第六十五號

○判文明治十三年五月十八日上告
明治十三年六月廿九日申渡

長野縣信濃國南安曇郡

明盛村平民大山喜代治

代理人

東京府淺草區淺草南元

町六十二番地平民

上告人

白木作藏

長野縣信濃國南安曇郡

被上告人

小林孫三郎

明盛村平民

林地所有爭論ノ一件東京上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトスル上告ニ

對シ辨明并ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

上告人カ上告ノ主点ハ東京上等裁判所ニ於テ上告第一號乃至第六

號證據ヲ採ラズ論地ニ適當セサル被上告ノ書類ヲ以テ強テ論地

ニ適當シモノトシ論地ハ被上告ノ所有ナリト認定セラレタルハ不

當ト云ニアリ因テ控訴書類ニ就テ之ヲ審究スルニ上告第一號書面

地引帳ノ寫ハ字花園二千百十三番林三反三畝四步持主大山喜代治

トアルノミニシテ論地ハ之ニ孕ミタリトノ一ハ毫モ視察スルモ

ノナシ其第二號百瀬權三ヨリ被上告人ニ入置タル質地証文ノ中田

七畝歩ハ其境界東ハ當時大山喜代治持地境トアリ則チ權次堰以東
 二於テモ現ニ喜代治ノ持地アルノミナラス上告人カ申立ハ止テ該
 証ハ論地ヲ孕ミタルニ非スト駁スル迄ニシテ果シテ上告人ノ所有
 ナリト視察スヘキノ証ナシ其第三號明盛村副戸長飯沼覺平外四人
 ヨリ松本警察署ニ差出シタル手續書ハ其文中喜代治持地又林立木
 孫三郎ニ於テ枝打落候儀云々トアレ共其喜代治持地ト云ヒハ百
 瀨權三ヨリ孫三郎ニ差入タル証書ニ東ハ大山喜代治持地境ト記ス
 アルヨリ覺平外四人ニ於テ論地ハ喜代治ノ所有ナリト看認メタル
 ノ文意ナリ而シテ其喜代治持地境トアルニ付テハ原裁判第三條ノ
 如ク之ヲ以テ其境界ヲ定ムルノ証トハナシ難シ然レハ則チ止テ覺
 平外四人カ一應看認メタルヲ以テ論地ハ果シテ上告人ノ所有
 ナリト定ムルノカラナキモノトシ其第五號立木買請証文ハ花園林

立木不殘トアリ而シテ上告人カ所有地字花園ト稱スル田畔ニシテ
 立木アルハ止ターケ所ノミナラサルヲ視レハ該証ニ記シタル花園
 ハ何レノ處ナルヤ果シテ論地ニ適當スルモノト認定スルヲ得ス其
 第六號証ハ上告人カ連綿論地ノ隣地ヲ所有シタルヲ証明シ以テ被
 上告第一號証南ハ一日市場村幾藏殿畑境トアルヲ駁スレトモ止マ
 之ヲ駁スルノミヨシテ論地ハ上告人ノ所有タルヲ駁スヘキモノナ
 シ又上告人ハ明治十一年中被上告人カ堰ヲ取潰シタルヲ主張ス
 レハ東京上等裁判所ノ裁判第一條ニ明治十一年中被告カ取潰シタ
 ル堰ナリトノ原告申立アレハ被告ノ取潰シタルモノハ小溝ナリト
 ノ被告供述ヲ駁スルヲ能ハサル上ハ權次堰ノヲ指稱セヤモノト
 云ハサルヲ得ストアリ之ニ由テ之ヲ觀レハ東京上等裁判所ハ設令
 現今其小溝存在スルモノトスルモ猶ホ權次堰ヲ以テ境界ト見認メ

タルモノニシテ其小溝アリシヲ知ラスシテ權次堰ヲ境界トナシ
タルノ裁判ニ非サルナリ然レハ則チ被上告人カ取潰シタル小溝ノ
有無ハ上告人カ論地ノ所有主タルヲ証スルニ由ナキモノナリ此ノ
如ク上告人カ原裁判所ニ出シタル書類又ハ申立タル事柄ハ論地ノ
所有ヲ証スヘキモノナキヲ以テ東京上等裁判所ハ被上告人カ護持
スル証書ノ効ヲ打消スヘキカラナキニ付論地ハ被上告人ノ所有ニ
屬スルモノト言渡シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノナリ

第百六十六號

○申渡 明治十三年六月廿八日上告
明治十三年六月廿九日申渡

石川縣越前國阪井郡細

呂木村平民飯塚康行代

人同人實弟

飯塚朝雄

其方ヨリ同縣同國同郡北瀧浦戸長初馬市真助外一名へ對スル漁業權
械違約一件明治十三年四月十二日大阪上等裁判所ニ於テ申渡サレタ
ル裁判ヲ不法ナリトシ本院へ上告及ヒ候處右ハ太政官ノ裁令ヲ經テ
裁決セシモノニテ本院ニ於テ受理スヘカラサルモノナルニ依リ上告
狀却下候事

第百六十七號

○判文 明治十三年五月廿九日上告
明治十三年六月三十日申渡

熊本縣肥後國山鹿郡上

上告

内田村士族

田代安節

熊本縣肥後國山本郡平

島村士族

前田利三太

地所境界争一件長崎上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ上告スル主点ハ左ノ如ク

圖面論地白色ハ上告者〔被控訴〕ノ所有ナル舊百七番ノ地ニシテ被上告

カ所有地百八番ハ百九番即チ紅色部分内ニ置キ右道ヲ以テ彼我ノ境界ト定ムヘキモノナルヲ長崎上等裁判所ハ新道ヲ以テ境界トセラシメタルハ不法ナリトノ事

辨明

乙第一號証書ヲ閱スルニ最初上告人カ地所取戻ノ訴ヲ爲シタルハ

舊見圖帳面ノ寫第一筆畑貳畝歩ノ地所ニ止マリ殊ニ未年高下作彦

助〔原被實父茂〕ノ貼紙アルハ百七番ノ一筆ノミヨシテ乃チ中敷舊貳

畝四歩ノ如キハ辰年彦七〔即チ被上告〕ノ貼紙アルニ依シテ果シテ上

告者ノ所有ト看做ス可ラサルノミナラズ甲第一號乃至第四號及ヒ

乙第四號証書ノ舊見圖帳地推帳面等ニ照ラヌモ百七番百八番百九

番ハ全ク別地ニ屬スルト判然タリ又控訴審理中原被兩造カ實地分

見測量ヲ爲シタル所ノモノニ徴スルモ百七番元貳畝歩ノ地ハ五畝

拾四歩トナリ百八番元貳畝歩ハ五畝七歩トナリ百九番元貳畝拾八

歩ハ七畝廿八歩ノ増歩トナリタルヲ視レハ上告者ハ被上告ノ實弟

ニシテ實父茂十郎ヨリ元貳畝歩現實五畝拾四歩ナル地所ノ分與ヲ

受ケタルノミナリト認定スルヲ得ヘシ且夫万延元年申五月中新道

チ古道ニ直シ既ニ公道ニシテ道敷ハ官地無税ナルコトハ村總代戸長等ノ証明スル所ニ係リ本訴ノ起發ニ至ルマテハ殆ント二十年間ヲ經過シ曾テ上告者カ異議ヲ唱ヘタル形迹ノ徴スヘキモノモナケレハ敢テ被上告者カ境界ヲ紊亂スル爲メノ所業ニ成リタルモノト謂フ可ラス唯々其境界ニ沿テ新道ヲ開ラキタルモノナレハコソ上告者モ異議ナク之ヲ承諾セシモノト謂ハサルヲ得ス然ラハ則チ被上告者カ初審ノ口供中ニ境ニアル梅木榎木ハ云々トアル一語ノミヲ以テ境界ハ古道ノ跡ナリト爲ス可ラサル旨裁判セシハ當然ノ裁判ナリトス何トナレハ梅木榎木ヲ見通シテ以テ境界トナシタルトノ陳述ハ上告者一己ノ陳述ナルニ由リ右境ニアルトノ文詞ハ必ラスシモ百七番ト百八番トノ境ニアル云々ノ意旨ナリト斷言ス可ラス反テ百八番百九番ノ境ニアル云々ノ意義ナリシトモ謂フチ得ヘケレ

ハナキ

判決

右ノ如クナルニ依リ長崎上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ

正誤
一七三
一三二
一二八
一二〇
一〇九
一〇八
一〇七
一〇六
一〇五
一〇四
一〇三
一〇二
一〇一
一〇〇
九九
九八
九七
九六
九五
九四
九三
九二
九一
九〇
八九
八八
八七
八六
八五
八四
八三
八二
八一
八〇
七九
七八
七七
七六
七五
七四
七三
七二
七一
七〇
六九
六八
六七
六六
六五
六四
六三
六二
六一
六〇
五九
五八
五七
五六
五五
五四
五三
五二
五一
五〇
四九
四八
四七
四六
四五
四四
四三
四二
四一
四〇
三九
三八
三七
三六
三五
三四
三三
三二
三一
三〇
二九
二八
二七
二六
二五
二四
二三
二二
二一
二〇
一九
一八
一七
一六
一五
一四
一三
一二
一一
一〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一

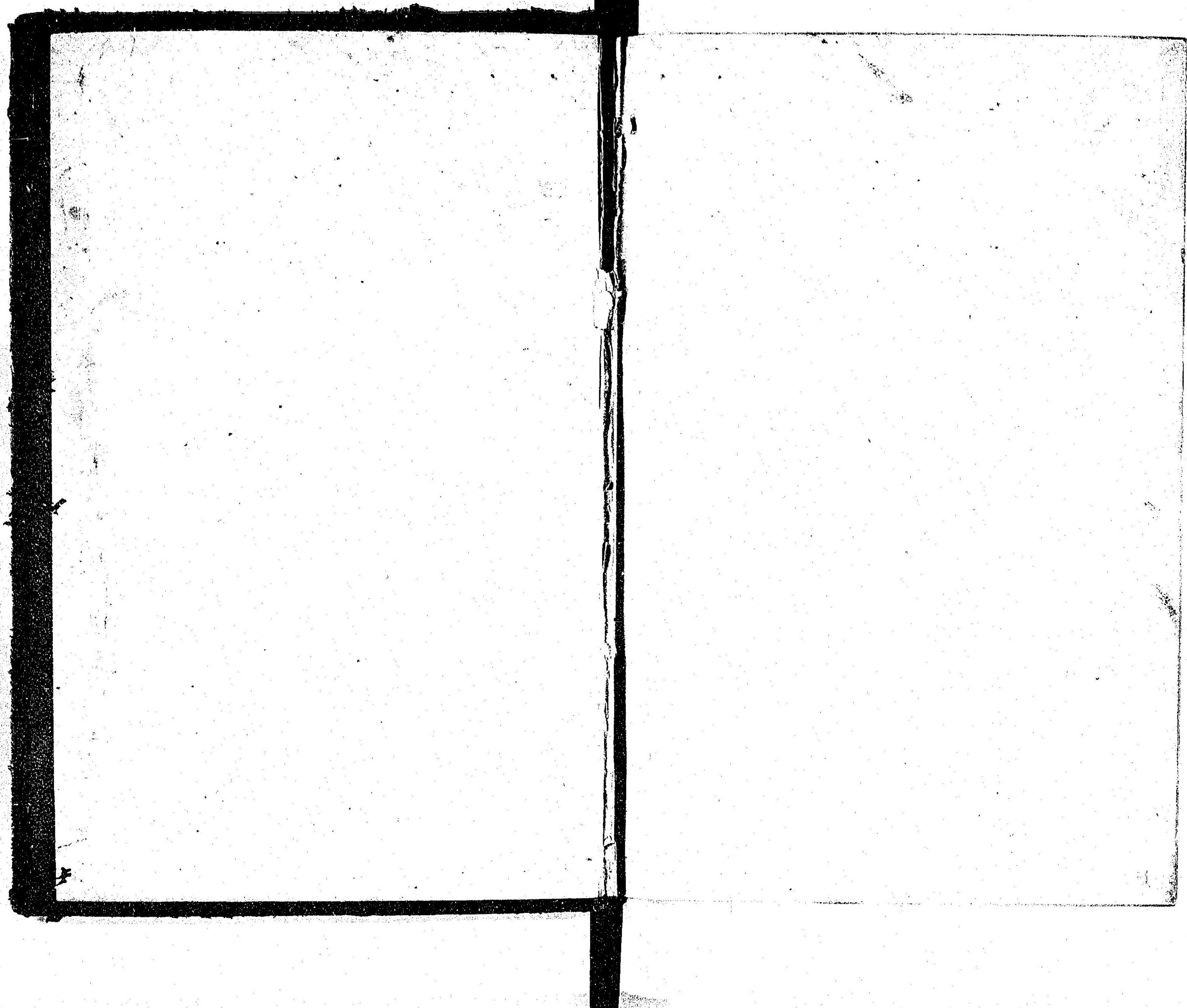
正誤

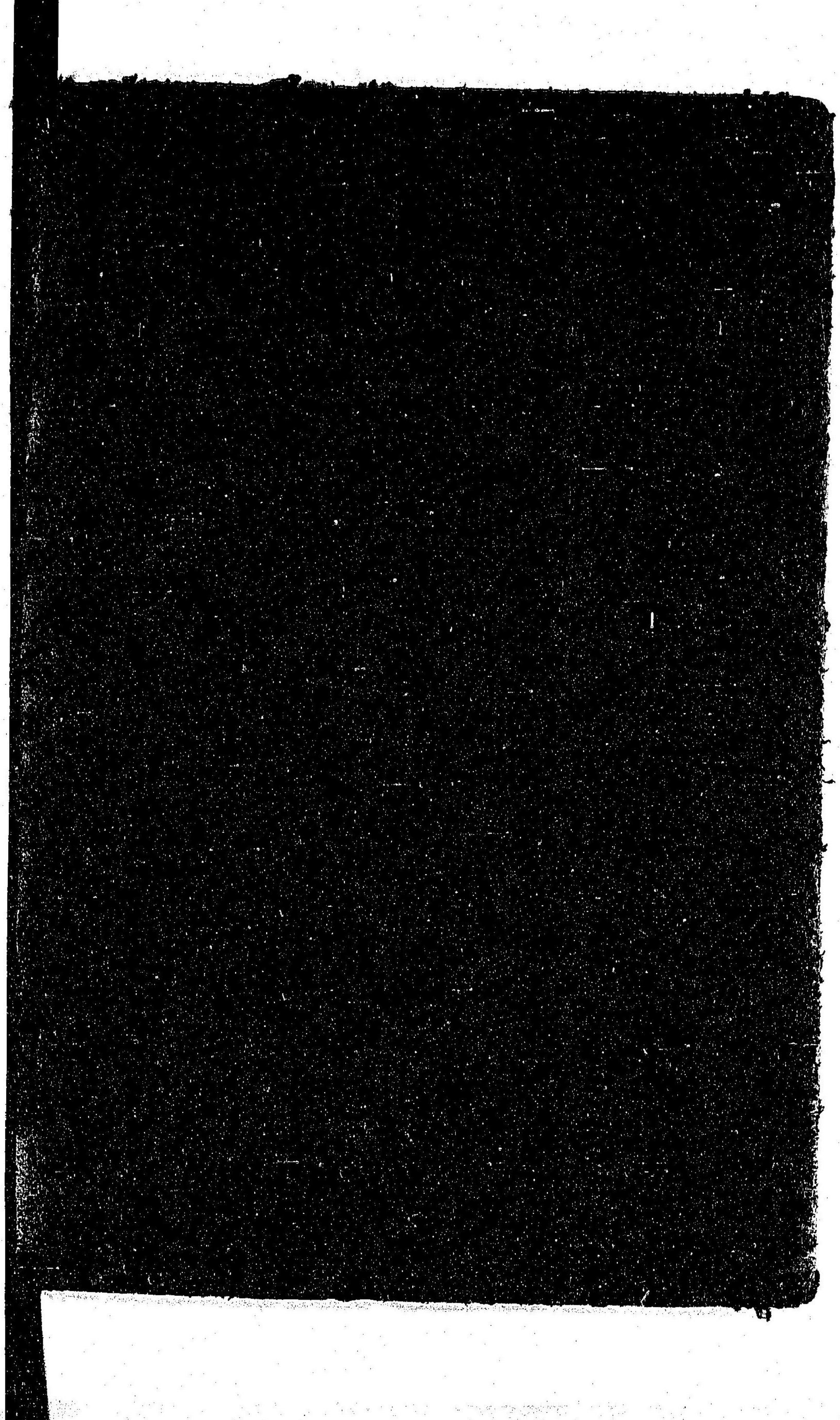
八十八

正誤

三八	一行目	第十號ノ第ヲ脱ス
一二〇	二行目	者ナルハレ
一二八	五行目	大坂上判所ハ裁
一三二	六行目	家建ハ建家
一七三	十二行目	上人告ハ告人
二〇八	十一行目	實其ハ其實
二〇九	三行目	セサルテハチ
二五〇	八行目	因甲ハ由
三〇〇	六行目	將ハ對
三五四	二行目	トノハノハ
四八六	四行目	破破ハ毀

五五五	十一行目	漁揚ハ場
五八五	五行目	得ヘキテハモ
六四四	八行目	調査スモハル
六五六	九行目	志津村ハ村
六五八	二行目	於テニハハ
六七三	十二行目	能ハサモハル
七六六	五行目	居タルヲハチ
八〇〇	十二行目	字兵衛ハ字
九二三	一行目	官城ハ宮
九七五	五行目	十三年ノ年ヲ脱ス





036566-019-0

CZ-2811-10

大審院民事判決録

明8. 7-14. 6 14. 10-17. 12月

司法省

M11-19

BBR-0625



